

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百二十)

第五章：二つのこよみ(西暦とヒジュラ暦) (六)

百二十 ヒジュラ暦千四百年(西暦千九百八十年)前後(二一五)



ムスリムもヒジュラ暦千四百年についてとやかく騒いだ訳ではない。そもそも彼らはラマダンやハジ(大巡礼)のような月々の行事には敏感であったが、年の移り変わりには余り頓着しない。従ってヒジュラ暦千四百年(西暦千九百七十九―八十年)をことさら強調するのは避けるべきかもしれない。しかしこの年の前後に中東イスラーム諸国で相次いで大きな出来事が発生したことは歴史的な事実である。

例えばヒジュラ千三百九十九年(西暦千九百七十八―九十九年)にはエジプトのサダト大統領とイスラエルのベギン首相が米国大統領の仲介で歴史的なキャンプデービッド会談を行い、二人はその年のノーベル平和賞を受賞、翌年両国の平和条約が締結された。しかしこれは他のアラブ諸国の反発を招き、エジプトはアラブ連盟から除名される。エジプトは和平の見返りとしてアラブ・イスラームの盟主の座を追われたのである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakarazuyal@gmail.com